

博士論文（副論文1）

日本作業療法学会発表における
意味のある作業とその類似の言葉の
使用について

2017年3月

指導教員 石井 良和 教授

首都大学東京大学院 人間健康科学研究科

（博士後期課程）

人間健康科学専攻 作業療法科学域

大松 慶子

研究

日本作業療法学会発表における 意味のある作業とその類似の言葉の使用について

大松 慶子¹⁾²⁾, 石井 良和³⁾, 山田 孝⁴⁾⁵⁾

- 1) 関西学研医療福祉学院作業療法学科,
- 2) 首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法科学域博士後期課程院生
- 3) 首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法科学域,
- 4) 目白大学大学院リハビリテーション学研究科
- 5) 首都大学東京名誉教授

本論文は、2012年5月に奈良市で開催された第5回奈良県作業療法学会での発表に加筆修正を加えたものである。

要 旨

1995年～2010年の日本作業療法学会における意味のある作業とその類似の言葉を使用した抄録を基に、その言葉の使用状況を検討した。その結果、件数は1997年以降2008年までは1桁、2009年以降は2桁とわずかではあるが増加していた。また、意味のある作業とその類似の言葉には「意味」「重要」「価値」の言葉とその組み合わせが頻繁に用いられ、その中でも「意味」が最も多く用いられていた。これらの過程は、日本の作業療法士がクライアントの持つ価値や作業に注目した新たなパラダイムを受け入れていく過程を示していると考えられた。今後、意味のある作業とその類似の言葉の内容と関係を検討することが必要である。

Key words : 作業療法, 意味のある作業, 日本作業療法学会

2012年9月6日受付, 2012年11月19日受理

作業行動研究 16 : 176-182, 2012.

ORIGINAL ARTICLE

A study of meaningful occupations and similar words
in Japanese occupational therapy academic conferences

Keiko OMATSU¹⁾²⁾, Yoshikazu ISHII³⁾, Takashi YAMADA⁴⁾⁵⁾

1) MS, OTR, Division of Occupational Therapy, Kansaigakken Medical Welfare College

2) Doctorial Student at School of Human Health Science, Tokyo Metropolitan University

3) PhD, OTR, Division of Community-Based Occupational Therapy, Master and Doctor
Program in Occupational Therapy, Graduate School of Human Health Science, Tokyo
Metropolitan University

4) PhD, OTR, Graduate School of Rehabilitation Science, Mejiro University

5) Professor Emeritus, Tokyo Metropolitan University

Abstract

This study is an examination about extracts using of “meaningful occupation” and that similar words in Japanese occupational therapy academic conferences. We found that extracts increase since 1997. It showed the process to receive the new paradigm for Japanese occupational therapists. The words of ‘meaning’, ‘important’, ‘value’, and their combinations were used in that extracts. The highest frequency word of use is ‘meaning’. The further problem is to examine the contents and relation of those words.

Key Words : occupational therapy, meaningful occupation, Japanese occupational
therapy academic conferences

Received on September 6, 2012. Accepted on November 19, 2012.

Japanese Journal of Occupational Behavior 16: 176-182, 2012.

はじめに

近年の日本の作業療法士による学会発表や報告には、意味のある作業や意味のある活動、または、それに類似した重要な作業、価値を置く作業、価値ある活動などの言葉を用いたものが散見されている。これらの言葉は、クライアントにとって何らかの特別な作業や活動をさすという意味で、同様な内容を指す言葉であると考えられる。そのため、これらの言葉を用いて作業療法を論じる報告は、クライアントの持つ価値や作業に注目した内容であると推察される。

作業療法の中の作業と意味のある作業

現代の作業療法は、「対象者の健康と良好な状態にとって重要で意味のある日々の活動ができるように援助する art であり science である¹⁾」と定義される。この定義にある「意味のある活動」とはどのようなものであろうか。

作業と活動の関係については、まず作業とは、日常生活活動、遊び、生産からなり、時間を占め、その経過を特徴づけるものであり、また、他人とともに行うことによって社会的世界の中で自分自身の場所を作り出すものとされている²⁾。

作業はまた、「意味のある活動のまとめ³⁾」であるとされる。この説明によれば、作業は本来、意味をもっていると言える。その中で意味のある作業とは、「個人が自分の価値を認識したり、自信を持ったりすることを促進するような意味のある作業を行う時、意味のあるその他の作業に結びつくためのさらなるモチベーションを持ち、満足と喜びの感情を抱く結果となる⁴⁾」と説明されている。意味のある作業は、それを行う人に自信をもたらし、他の作業への取り組みを促す、満足や喜びを感じられる作業と言えるだろう。

一方、作業療法に関連して作業を検討する場合、「目的」としての作業と「手段」としての作業があるとされている。目的は、対象者が自分自身にとって意味のある作業によりよく取り組めるようにすることであり、手段は、作業療法の実践過程で、作業を治療的に用いたり、あるいは作業遂行

を変えたりする1つの方法として用いる場合をいう⁵⁾。意味のある作業は目的としての作業である。そして、意味のある作業やその類似の言葉を用いた作業療法の説明は、クライアントの持つ価値や、目的としての作業に注目したものであると考えられる。

国内の作業療法における作業

国内での過去の作業療法の定義の例が、1976（昭和51）年に第1版が出版された「作業療法総論」に記されている。そこには1972年の米国作業療法協会の定義が引用されており「作業療法は、行為を回復し補強したり増すためや、適応や生産的生活に必須な技術を学習し、疾患の軽減と健康増進や維持をするために、特別の選択した課題を遂行するように導く芸術であり、科学である⁶⁾」とある。この定義からは、作業療法は疾患に注目しクライアントの可能なことを増やす特別な技術であるというとらえ方を読み取ることができる。しかし、クライアントにとっての価値や作業の意味には言及されておらず、注目されているのは手段としての作業である。これは、この時代の米国の作業療法が還元主義に基づいた機械論パラダイムに沿って行われており⁷⁾、その内容が教育という形で日本に持ち込まれたため⁹⁾¹⁰⁾であると考えられる。

道徳療法にルーツを持つ作業療法は、20世紀初頭に作業パラダイムを中核的構成概念として持つ専門職として生まれた。しかし、1940年代後期から1950年代にかけて、医学における還元主義の下で機械論パラダイムへと変化した。米国での作業療法は、機械論パラダイムによってクライアントの純粋な運動と精神内界の機能改善を主題としていた。それは作業療法の同一性の欠如を生み出し、健康回復の手段としての作業の重要性を覆い隠した。「作業療法総論」が出版された時期の米国では既にパラダイムの危機を迎えており、クライアント中心で作業に焦点を当てる新たなパラダイムの萌芽が生まれていた⁷⁾。この新たなパラダイムの一部で使われたのが、意味のある作業であった。これらのことから、意味のある作業は、クライアント中心で作業に焦点を当てるパラダイムの一つの指標と考えられる。

「作業療法の核」論議

日本の作業療法界には、作業療法とは何かとか、「作業療法の核」について長期間検討してきた経過がある。公には1975（昭和50）年以降、約15年間延々と続いてきた。「日本作業療法士協会25周年記念誌シリーズ・作業療法の核を問う⁹⁾」が出版されたのは1991（平成3）年である。本書のまとめと位置づけられる『作業療法』の核（第26回日本作業療法士協会総会発表）の部分には、「作業・活動は手段であり、創造的・治療的応用は核であり、対象者のQOL、幸福の獲得は目標となる」と記されている。これは、作業療法士が主体で作業を手段として用いる考え方である。対象者のQOLや幸福が目標に置かれている部分を除けば、先述の「作業療法総論」にある定義に近い内容である。

歴史の初期に米国の作業療法教育を導入したわが国も、10年以上遅れながらも米国と同様なパラダイムの変遷⁷⁸⁾をたどっている可能性が考えられる。

目的

本研究では、意味のある作業とその類似のことばを、日本の作業療法がクライアントの持つ価値や作業に注目した実践へと変化する一つの指標と仮定した。その上で、日本作業療法学会における意味のある作業と類似の言葉の使用状況を検討することとした。その結果から、日本において作業療法がクライアントの持つ価値や作業に注目するように変化していく過程の一端を明らかにすることを目的とする。

方法

1)対象文献

対象は、1995年～2010年の日本作業療法学会抄録集（CD-ROM含む）とした。これは、前述の「作業療法の核を問う⁹⁾」の出版が1991年であることと、1994年の第28回日本作業療法学会学会

長講演で、意味のある活動という言葉が使用されている¹¹⁾ことを考えあわせた結果である。

2)方法

対象から、各年度における演題抄録（一般，特別，テーマ演題等含む）の総数を調査した。その後、意味のある作業，意味のある活動，重要な作業，価値を置く作業など，意味のある作業とそれに類似した言葉を使用した抄録を手検索にて抽出した。これらの言葉は，第一筆者が内容を読み，クライアントにとって何らかの特別な作業をさしていると判断したものとした。抽出した抄録を年度毎にまとめ，件数と全体に占める割合を明らかにした。その後，意味のある作業とその類似の言葉を同類の言葉ごとに分類し，どのような言葉が使用されているかを明らかにした。なお，意味のある作業などの後に何らかの言葉が続いているもの（例：関心のある作業遂行領域）を使用している抄録は除外した。また，活動は作業に含まれるとみなし，作業，活動，作業活動を同様に抽出した。

結果

抄録総数は，1995年の305件からほぼ毎年増加しており，2010年には885件であった。

意味のある作業とその類似の言葉を用いた抄録は，対象期間全体で99件であった。1995年と1996年は0件であり，1997年の1件が初めてであった。その後，件数の増減はあるものの全体で見ると増加傾向であった。1998年～2001年は2～5件，2002年～2008年は5～9件，2009年は12件，2010年は24件であった。抄録全体に対する割合は，1997年～2001年が0.3%～1.2%，2002年～2009年が0.8%～1.6%，2010年が2.7%となっていた（表1，資料）。

意味のある作業と類似の言葉を，作業，活動，作業活動以外の部分で分類すると，①意味，②重要，③価値，④意味・価値・重要な組み合わせ，⑤価値・興味の組み合わせ，⑥意味と重要・価値以外の何らかの言葉の組み合わせ，⑦その人らしい・その人にふさわしい，⑧一抄録中に2種類以

年	a.抄録総数	b.「意味のある作業」等の言葉を使用した抄録数	b/a (%)
1995	305	0	0
1996	314	0	0
1997	315	1	0.3
1998	325	4	1.2
1999	415	2	0.4
2000	445	5	1.1
2001	525	3	0.5
2002	559	9	1.6
2003	547	6	1
2004	590	5	0.8
2005	604	5	0.8
2006	718	9	1.2
2007	687	7	1
2008	825	7	0.8
2009	789	12	1.5
2010	885	24	2.7
	合計	99	

分類	分類計	全体に対する割合	対象の言葉	件数	
①	意味	56	56.6%	意味のある作業	27
				意味ある作業	16
				意味のある活動	4
				意味のある作業活動	2
				意味ある活動	1
				意味をもつ「作業」	1
				意味づけられた作業	1
				特別の意味をもつ作業	1
				意味のある作業活動	1
				「人生において意味づけられている」活動	1
				Meaningful activity	1
②	重要	14	14.1%	重要な作業	8
				重要な活動	2
				重要な作業活動	1
				重要だと考える活動	1
				重要だと考える作業	1
③	価値	9	9.1%	価値を置く作業	3
				価値ある作業	2
				価値のある活動	2
				価値ある活動	2
④	意味・価値・重要な組み合わせ	4	4.0%	意味・価値のある作業等	2
				重要で意味のある作業	1
				重要な価値とされる作業	1
⑤	価値・興味の組み合わせ	2	2.0%	価値や興味のある作業等	2
⑥	意味と重要・価値以外の何らかの言葉の組み合わせ	4	4.0%	意味のある動機づけの高い活動	1
				意味深い必要な作業活動	1
				意味やなじみのある作業	1
				意味があり、主体的に参加できる作業	1
⑦	その人らしい・その人にふさわしい	4	4.0%	その人らしい作業	2
				その人にふさわしい作業活動	2
⑧	一抄録中に2種類以上の言葉を使用したもの	6	6.1%	非常に重要な作業活動、非常に意味のある一つか二つの作業活動	1
				意味のある作業、大事な作業	1
				大切な作業、自分らしい作業、自分らしさの発現につながる作業	1
				重要で意味のある作業、大事な作業	1
				重要な作業、重要で意味のある作業、意味のある重要な作業	1
意味と価値ある作業、意味のある作業	1				
				合計	99
				最も件数の多い代表的言葉	

資料		OT学会での「意味のある作業」と類似のことばを使用した抄録	
年	件数	題名	著者
1995年	0		
1996年	0		
1997年	1	在宅高齢障害者のADLに関する新しい評価法の試み	常本浩美, 吉川ひろみ, 他
1998年	4	面接技法としてのCOPMの有用性～精神科領域での経験～	瀧美恵美, 佐藤善久
		訪問指導におけるCOPMの利点	有坂尚子, 山下あきみ, 他
		自己存在を否定したある入所者との関わり	熊谷健, 笹田哲
		カナダ作業遂行測定(COPM)を日本で使用するための課題	吉川ひろみ, 上村智子
1999年	2	作業遂行プロセスモデルを利用した症例検討—外出訓練の効果について—	古山千佳子, 吉川ひろみ, 他
		患者—治療者間の視点共有の重要性	梅崎敦子, 細川千絵, 他
2000年	5	ある高齢障害者からみた作業療法の効果	大平陽子, 吉岡英章, 他
		高齢施設生活者の作業活動と生活満足度の関係	小林法一, 宮前珠子
		カナダ作業遂行測定の妥当性の検討～高齢者を対象として	近藤敏, 吉川ひろみ, 他
		発症後一年半の脳卒中患者に対する作業療法の効果	大西久美子, 上村智子
		生活場面でのトランスファー繰り返し訓練の効果—在宅での1症例を通じて—	古山千佳子, 吉川ひろみ
2001年	3	対象者が価値を置く作業への援助が生活の幅に影響を与えた—症例	一原里江, 斎藤明子, 他
		役割再獲得が成功するための要因:—症例の検討	梅崎敦子, 吉川ひろみ
		地域における作業療法アプローチの一考察	村井千賀, 寺田佳世, 他
2002年	9	私の作業療法地図 作業療法におけるシステム論的視座	野藤弘幸
		ある男性高齢者Mさんの訪問リハビリテーションに対する評価と提案かたについて	朝日まどか, 岸上博俊, 他
		援助者と自らが価値を置く作業を共有することの意味—ワークという作業に従事することで日常生活に変化がみられた—症例—	一原里江, 青山宏, 他
		個人にとって特別の意味を持つ作業を共に行うことについての—考察	小川小枝子, 石川恵美子, 他
		役割獲得に向けての援助—食事動作を通して—	森脇三枝, 塚本ひとみ, 他
		精神科作業療法における協業の取り組み—人間作業モデルを導入した経験—	京極真, 野藤弘幸, 他
		ある高齢症患者にとっての「庭の散歩」の意味	三木恵美, 小林法一, 他
		クライアントとOTによる協業的目標設定—1症例を通して—	細川千絵
		施設内でのその人らしい作業を組み込んだ生活リズムの確立—「毎日の弾み」となった手工芸を持った1症例を通して—	段敬史, 酒井ひとみ
2003年	6	回復期から終末期へ移行した症例の報告～作業を通じての患者・家族との関わり～	青木理夏, 吉川ひろみ
		うつ病の症例における動物介在療法の効果の検討	亀山清子, 祝大史, 他
		大工仕事に価値を置く事例が主体的な生活を送るまでの経過～OTRとの関わりとの関連～	遠藤真史, 依田学, 他
		Personality Disorderに対する作業療法—例～作業活動の意味・役割について～	福家亜希子
		就労女性の家事と就労の選択に影響を与えた母親の家事	岩井亜矢子
		予防的作業療法へのアイデア ～作業科学の知識と実践～	岩井亜矢子, 齋藤さわ子, 他
2004年	5	終末期作業療法における活動を介した家族との関わりについて	渡邊寿愛
		システムに対する作業療法—重症心身障害児者施設の現場から—	金子実千枝, 高橋理恵, 他
		高齢障害者に対する作業療法の実践技術	村田和香, 宮前珠子, 他
		“クライアント中心”機能訓練事業の実践	大越満, 新村美加, 他
		身体障害者療護施設デザイナーズにおける作業療法の一経験—傾聴とCOPMによる「真のニーズ」の把握—	木村恵見, 青山幸夫, 他
2005年	5	長期入院から退院へ—病院で働く作業療法士にできること—	山口清美
		高齢者はどのような作業を大切に思っているのか—COPMの枠組みを使った面接法を用いて—	井口智也, 辻部, 他
		介護老人保健施設を利用する高齢者の活動の継続性と学習ニーズ	藤原瑞穂, 常本浩美, 他
		臨床への作業療法モデルの適用と現状 入所して「精神的に大きくなれた」と退所後に語った1症例を通して	岩井幸治, 大山貞子, 他
		臨床への作業療法モデルの適用の現状 入所して「生き返った」と語った症例を通して	石森素子, 菊池隆一郎, 他
2006年	9	お勉強やりたかった—生活史の聞き取りにより「意味ある作業」を見出した事例—	大松 慶子
		作業遂行の開発—園芸を通して—	高木雅之
		急性期病院における「その人らしさ」と作業活動—その人中心のケアと一人の症例から送られた作業療法士に宛てたメッセージ—	島崎 寛将
		クライアントが懐く母としての思いを作業療法士が受け止める転機となった評価方法	細川千絵, 清水一
		入院が高齢障害者に与える影響	古山千佳子, 吉川ひろみ, 他
		症例を通じた回復期作業療法へのOSA2(作業に関する自己評価改訂版) 適応の検討	二瓶太志, 兼子健一, 他
		高齢期の意味ある作業のための3つの「場所」	坂上真理
		クライアントにとって意味のある作業活動により協業が可能となった—症例	大塚美幸, 大岩真衣
		趣味活動導入後, エピソード記憶, 病識に改善がみられた前交通動脈瘤術後の—症例—作話が認められる患者の語りの質的分析より—	横井安芸, 吉澤いづみ, 他

年	件数	題名	著者
2007年	7	「作業」の目標を明確にしたことにより社会参加に繋がった一例	岩見彩子, 浅野葉子, 他
		人間発達の仕事有能性モデルとカナダ作業遂行モデルの視点からの対人援助ー作業と有能感が生活範囲を広げるー	福田久徳, 松谷信也
		作業療法士はどのように意味ある作業を明確にする協働のプロセスを踏んでいるのか	島林紘之, 小川幸花, 他
		長期入院者の生活体験ー生活へ目を向けてもらうためにー	石黒恵理子, 山田隆司, 他
		「場所」は意味ある作業の再獲得にどのように関わるのかーケアハウス入居後に以前の作業を再獲得した事例の分析からー	坂上真理
		脳血管障害者の価値と役割の再構築にむけて	花山友隆, 近藤昭彦
		地域で暮らす精神障害を有する者の意味ある作業選択と生活満足度	國貞将志, 岡千晴, 他
2008年	7	障害児の母親が捉えた家族の作業	松田かほる, 吉川ひろみ
		「可能性」から見出される「作業」ーPotentialityの実践ー	福田久徳
		役割チェックリストにより, 画業を通して絆を再認識した高齢者夫婦	南征吾, 津山努, 他
		社会に参加するということー精神障害と共に生きる人々の社会参加についてのナラティブー	崎山美和, 浅羽エリック
		回復期病棟入院中の脳血管障害者に対しカナダ作業遂行測定とHealth Locus of Control尺度を実施して	高多真裕美, 前田美保, 他
		意味のある作業を通して広がる作業, 変わる環境ーパソコン教室の経験からー	高木雅之, 吉川ひろみ, 他
		“作業としての学業生活”における満足度の尺度化ーHere and Now Scale (HANS)の作成と試用結果ー	田村文彦
2009年	12	意味のある作業がもたらした社会的孤立からの脱却ー特別支援学校から地域生活へと定着した統合失調症を呈する一症例ー	蜂谷亮子, 野々内絵里子, 他
		個人にとって価値のある活動の遂行状況の測定ー自記式作業遂行指標(SOPI:Self-recording Occupational Performance Index)の開発ー	今井忠則, 齋藤さわ子
		健常高齢者における価値ある作業とその特徴ー予防的プログラムのための一考察	小林法一, 山田孝, 他
		要支援高齢者の意味ある人生を支えるOTプログラムの開発にむけてー試行的プログラムで効果に違いがあった2事例の比較ー	坂上真理, 清水麻衣子, 他
		意味のある作業とエンパワメントの状態の関連性	河野友志, 清水一
		僕の夢は絵描きになることー当事者の希望を支える「作業の可能化」に向けたOT実践ー	野口卓也
		肯定的なナラティブスロープで退院後の未来像を描いた事例	初鹿真樹, 藤本一博
		私の中の「作業」の変化ーポツポツ・・・から考えたことー	宗像暁美, 千葉亜希子, 他
		老いの生活の中に潤いを求めてー生花を用いた関わりを試みー	坂井晶子, 白井はる奈, 他
		施設入所高齢者の価値を反映した作業への従事と主観的幸福感への影響ーオシャレを楽しむ場の提供を通してー	山本朋子, 齋藤さわ子
		作業の意味を捉えるための枠組みの開発	吉川ひろみ, 港美雪
		社会福祉協議会ボランティアセンターを拠点とした作業療法士ボランティアの役割	春原み
2010年	24	From Purposeful Activity to Meaningful Activity	Noriyoshi Asai, Yoko Kubo, 他
		交換日記によりコミュニケーションに変化がみられた統合失調症の一例ー交換日記の作業の意味ー	藤原峻
		役割によって主体性を取り戻し退院に至った長期入院者の一例	内田彩香, 篠崎亜由美, 他
		個人にとって価値のある活動の参加(作業遂行)状況が健康関連QOLに及ぼす影響ー健康中高年者を対象とした6ヵ月間の追跡調査ー	今井忠則, 齋藤さわ子
		作業選択の違いを理解したことが多発性硬化症患者の安全な生活の支援に効果的だった一例	古川尚寛, 岸上博俊, 他
		高齢者の能力を引き出す地域包括支援のあり方についてー作業遂行力評価表を用いた通所リハビリテーションでの実践調査を通じてー	竹内さおり, 村井千賀, 他
		高齢者の持てる能力を引き出す地域包括支援のあり方についてー実践報告:通所リハビリテーションTRYー	榎森智絵, 村井千賀, 他
		介護老人保健施設における作業に焦点をあてた作業療法の定着に関する研究	河野法明, 近藤敏
		異なる容易な複数作業を順番におこなう作業提示方法の検討	杉原勝美, 古川宏, 他
		末期がん患者の七宝焼きによる生産的作業としての作業療法	木曾静, 東條秀則, 他
		高齢者の生活に潤いを与えた花ー活動と講師のもたらす効果の検討ー	石田晶子, 白井はる奈, 他
		意味のある作業が作業の形態・機能に与える影響について	原田洋平
		統合失調症者の注意機能と重要な作業との関係	小嶋亜美, 四本伸成, 他
		精神科における身体機能へのアプローチー興味ある作業の提供ー	中道恵, 田村陽子, 他
		興味と価値ある作業への参加により,「生きていて良かった」と自己効力感の向上に結びつくことができた事例	林孝祐, 石黒里香, 他
		折紙を通じた関わりでQOLの向上が図れた訪問作業療法について	大塚英樹
		転居後,高齢者は新しい環境にどのように適応するか?ー当事者の主観的経験からー	坂上真理, 近藤知子
		包括的な自立支援計画のあり方の提案	村井千賀, 桐竹清文, 他
		日本における健常な女性高齢者の一週間の作業活動の特性ー日本人とノルウェー人の比較を通してー	佐藤奈央子, 多羅尾めぐみ, 他
		意味ある作業介入することで有能感が向上し生活が変化した一症例ー琴の演奏ー	中山卓郎, 石川哲也
		作業療法士の作業療法のとらえ方と初回面接内容の関連	大松慶子, 山田孝
		わが国の回復期リハビリテーションにおける作業療法の目的と効果ー2001~2008年の作業療法文献よりー	中本久之, 清水竜太
		訪問を行う作業療法士に対する作業に焦点をあてた作業療法実践研修プログラムの効果	望月マリ子, 吉川ひろみ
		市民活動における退職後の団塊の世代の生きがい作り	春原み

上の言葉を使用したものに分類された。件数と全体に対する割合では①意味が56件(56.6%)、②重要が14件(14.1%)、③価値が9件(9.1%)、④意味・価値・重要な組み合わせが4件(4.0%)、⑤価値・興味の組み合わせが2件(2.0%)、⑥意味と重要・価値以外の何らかのことばの組み合わせが4件(4.0%)、⑦その人らしい・その人にふさわしいが4件(4.0%)、⑧一抄録中に2種類以上のことばを使用したものが6件(6.1%)などであった。意味、重要、価値が、それらを使用して組み合わせた言葉も合わせると、全体の89.8%を占めた。この意味、重要、価値の代表となる言葉を其々の最も件数の多いものとする、意味のある作業、重要な作業、価値を置く作業となった(表2)。

考察

日本作業療法学会での意味のある作業とその類似の言葉を用いた抄録は、1997年以降、2008年までは1桁の件数で推移していた。2009年に初めて2桁となり、2010年には前年の倍の件数となっていた。

国内でのパラダイムの変化

この結果からは、我が国でのクライアントの持つ価値や作業に注目する作業療法の視点は、21世紀から起こったように考えがちである。しかし、前述の「日本作業療法士協会25周年記念誌・シリーズ作業療法の核を問う⁹⁾」の一部には、現代のパラダイムにつながる記述が残されていた。

第21回学会(1987年)シンポジウムの記録には、鷺田が作業行動理論を紹介し、作業療法の核は「作業」であると述べている。また、第23回学会(1989年)シンポジウムの討論の中で、柴田は「Activityをできない人に対して...Activityをできるようにすることが核だと思いますので、核と言いま

すと ...Activity そのものであるというふうに提案したい」と述べ、鎌倉は「日常生活との関連においてある個人が望む生活を行えるようなそれと関連する作業を獲得し、より豊かにできるようにお手伝いするのが作業療法の仕事だと考えています」と発言していた。この時に述べられた作業や Activity が現在使用されている意味のある作業と同義であるかは定かではないが、それにつながる考えであり、1980年代のわが国の作業療法にも作業に焦点を当てるパラダイム変化の萌芽が存在していたと言えるだろう。

米国やカナダのクライアント中心であり、作業に焦点を当てる新たなパラダイムに基づいた作業療法理論は2000年までにわが国に伝えられた¹²⁾¹³⁾。その中に、わが国の作業療法士の一部が考えてはいたが上手く表現できないでいたクライアントの変化をもたらす作業を表現する言葉として、意味のある作業などが含まれていた¹³⁾。近年、意味のある作業やその類似の言葉の使用件数がわずかずつでも増加しているということは、日本の作業療法がクライアントの価値や作業に注目した内容へとパラダイムの変化⁷⁾を起こしており、現在はその過程の期間であると考えられた。

意味のある作業等の言葉の分類

ことばの分類の結果からは、「意味」を用いたものが最も多く、単独での使用でも全体の56.6%を占めた。他には「重要」「価値」が多く用いられており、この3つのことばを組み合わせて用いたものも合わせると全体の89.8%を占めた。他に使用された⑦その人らしい・その人にふさわしいは示す内容に個別性が高いと考えられ、⑧一抄録中に2種類以上の言葉を使用したものは、著者の、言葉自体に対するこだわりが少ないと見ることもできる。これにより、意味のある作業とその類似の言葉は、ほぼ「意味」「重要」「価値」の3つの言葉で表現されていると言うことができよう。これらの

うち最も使用頻度の高い言葉を各々の代表としてあげると、意味のある作業，重要な作業，価値を置く作業，となった。今後，これらの言葉の内容と関連の検討が必要である。

結語

1995年～2010年の日本作業療法学会抄録における意味のある作業とその類似の言葉の使用状況を検討した。その結果，件数は1997年以降ごくわずかずつではあるが増加しており，2010年が最多であった。この過程は，日本の作業療法士がクライアントの持つ価値や作業に注目した新たなパラダイムを受け入れていく過程を示していると考えられた。また，意味のある作業とその類似の言葉には「意味」「重要」「価値」を使用したものが多く，組み合わせた言葉も合わせると全体の89.8%であった。今後，意味のある作業とその類似の言葉の内容と関係を検討することが必要である。

文献

- 1) Crepeau, EB, et al : Contemporary Occupational Therapy Practice in the United States. Crepeau, EB, et al (eds.), Willard & Spackman's Occupational Therapy, 11th ed. 216-221, Lippincott, Williams & Wilkins, Maryland, 2009.
- 2) Kielhofner, G 編著 (山田孝監訳) : 人間作業モデルー理論と応用ー [改訂第4版]. 協同医書出版社, 5-6, 2012.
- 3) Polatajko, HJ, Davis, JA, et al.: Meeting the responsibility that comes with the privilege: Introducing a taxonomic code for understanding occupation. Can J of Occup Ther, 71(5):261-264, 2004.

- 4) タウンゼント, E, ポラタイコ, H. (吉川ひろみ, 吉野英子・監訳): 続・作業療法の視点, 作業を通しての健康と公正. 大学教育出版, 87-89, 2011.
- 5) 岩崎テル子編: 標準作業療法学, 専門分野作業療法学概論. 医学書院, 26-28, 2011.
- 6) 田村春雄, 鈴木明子編: リハビリテーション医学全書 9, 作業療法総論. 医歯薬出版株式会社, 1-6, 1980.
- 7) Kielhofner, G (山田孝・監訳): 作業療法の理論 原著第3版. 医学書院, 10-69, 2008.
- 8) Kielhofner, G., Burke, J.P. (山田孝・訳): アメリカにおける作業療法の60年, ~その同一性と知識の変遷について~. 作業行動研究, 5(1): 38-51, 2001.
- 9) 社団法人日本作業療法士協会: 社団法人日本作業療法士協会25周年記念誌 シリーズ作業療法の核を問う. 社団法人日本作業療法士協会, 47-60, 89-107, 平成3年.
- 10) 山田孝: 日本の作業療法の歴史分析のために. 作業行動研究, 7(1):1-5, 2003.
- 11) 山田孝: 作業療法の理論と臨床の論理—ある症例を通して—. 作業療法, 13(4): 292-300, 1994.
- 12) Kielhofner, G 編著 (山田孝監訳): 人間作業モデル—理論と応用—[改訂第2版]. 協同医書出版社, 1999.
- 13) カナダ作業療法士協会 (吉川ひろみ・監訳): 作業療法の視点, 作業ができるということ. 大学教育出版, 2002.